

平成 28 年 2 月 22 日

博士 論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 1329022009

氏 名 佐藤 文

論文審査員

主 査（職名）大桑 麻由美（教授）



副 査（職名）表 志津子（教授）



副 査（職名）須釜 淳子（教授）



論文題名 A cross-sectional study of elderly individuals with oedema and skin injuries in long-term care facilities（療養施設入所中の高齢者における浮腫と皮膚損傷の横断研究）

論文審査結果（論文内容の要旨及び審査結果の要旨：1000字以内で記入）

【論文内容の要旨】

本研究の目的は、浮腫を有する高齢者の浮腫と外力による皮膚損傷との関係を見出すことである。研究デザインは横断観察研究である。対象は、石川県内の長期療養施設および特別養護老人ホーム入所中の 65 歳以上の高齢者である。調査項目は、基本属性（年齢、性別、疾患、BMI、麻痺・関節拘縮、ブレイデンスケール）と、身体各部位（55 部位）の浮腫および皮膚損傷とした。浮腫は深沢変法にて浮腫 2 度以上を浮腫ありとした。皮膚損傷とは、医療機器関連創傷を含む褥瘡、スキンテア、その他外力による損傷とした。入所者 579 名から除外基準適合者 269 名を除外し、310 名を調査対象とした。浮腫あり群は 205 名で、平均年齢 87.2 歳±7.3 歳、女性 75.1%、BMI18.2、脳血管障害 62.0%、ブレイデンスケール合計点 12、寝たきりが 73.2%、麻痺・関節拘縮は約 60% であった。205 名の観察部位は 10,968 部で、浮腫 2 度以上は 828 部（7.5%）で下肢に 88.2%認めた。皮膚損傷は 41 部（褥瘡 26 部、スキンテア 5 部、その他 10 部）で、下肢に 24 部（58.5%）認めた。浮腫保有部と皮膚損傷との一致は 5 部（12.2%）で、全て下肢であった。皮膚損傷に対する浮腫のオッズ比は 0.87 であった。以上の結果が示唆することは、外力調整のケアにより浮腫を有する高齢者の皮膚損傷を低減できるということである。

【審査結果の要旨】

本研究は、超高齢化社会の中で看過されている慢性浮腫に着眼し、信頼性のあるフィジカルアセスメント法で全身を観察した独創性の高い研究である。さらに創傷との関連を検討することで、高齢者の下肢のスキンケア、外力のケアの重要性を示唆した。発表は、初めて聴く人に配慮した、わかりやすいものであった。また、質疑応答において、データ測定の信頼性について質問されたが、的確に回答していた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。